［特別事例レポート］

築40年以上の「非日常空間」のクオリティを維持し“カルチャー”“アート”で幅広い需要を拡大

ホテル富貴／ホテル千扇

“昭和レトロ”の非日常空間を現代まで色褪せずに維持

「非日常」は、レジャーホテルにとって重要な要素であるが、“昭和のレジャーホテルならでは”の非日常空間のクオリティをいまなお維持し、安定集客とともに、“カルチャー”“アート”など、さまざまなキーワードのもとに多彩な情報発信を行なっているのが、大阪市都島区の「ホテル富貴」（23室）と「ホテル千扇」（8室）である。

JR、京阪、市営地下鉄が乗り入れる京橋駅から徒歩5分ほどの繁華街立地で、40年以上にわたり経営を続けている両ホテルは、現経営者である野村和美代表の先代が1977年に取得し、同氏が97年に継承したもの。

「市内の好立地にあることから、大規模リニューアルで新しいデザインのホテルとして再生を図っては、といったお話をいただくことも多いです。けれども、ホテル富貴やホテル千扇のように、客室ごとに趣向を凝らしたエンターテインメントなデザイン空間は、今後つくることのできない貴重な財産です。また、“このホテルの雰囲気がいい”という常連のお客さまも多く、私自身も愛着をもっています。そのため、父から受け継いだホテル空間を活かしながら、“このホテルだからできる”独自の運営を目指すことにしました」（野村氏）。

もうひとつ、重視したのが差別化戦略である。

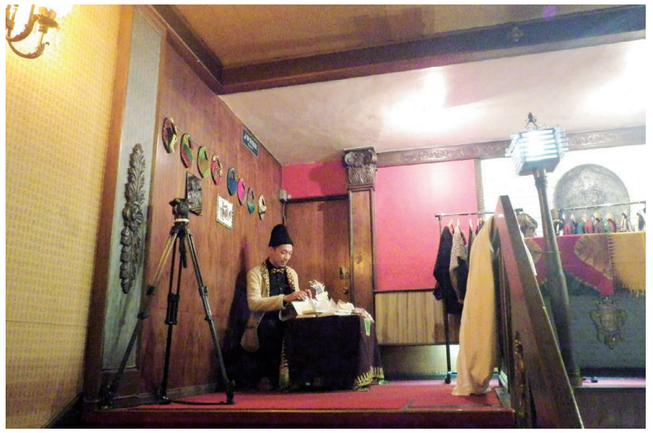
「全面リニューアルを行なったとしても、単に“新しいデザイン・設備のホテル”になるだけで、そうしたホテルは数多く存在します。むしろ、“昭和レトロ”な客室空間をアピールすることで、カップル客を主体に高稼動を狙うという、従来のホテル戦略ではない独自の事業展開が可能になると考えました」（野村氏）。

そのため、日々の修繕・メンテナンスも、オープン時からの素材・建材を最大限に活かすことを最重視している。

「部屋ごとに異なるデザイン空間ですから、レジャーホテルの専門業者さんではなく、いわゆる“職人さん”たちを集めて改装チームをつくっています。手間のかかる作業ですが、私のホテルに対する思いに共感してくれた彼らの力で、空間としてのクオリティが維持できています」（野村氏）。

“アート”としての再評価によりさまざまな需要拡大が生まれる

こうした同氏の取組みは、映画監督や写真家が撮影の場としてホテルを活用するなど、さまざまな分野から高い評価を得ており、ホテルのHPを開設し客室写真をアピールしたこともあり、海外からの利用客も増えている。レジャーホテル業界がインバウンド需要に注目する以前から、同ホテルのレトロな空間を目的に宿泊し、ホテル内を撮影する外国人客がみられ、ホテルのファンとなった著名なアメリカ人写真家の写真展を、ホテル富貴の2部屋を使って開催するといったことも行なっている。



タンザニアの楽器リンバによる演奏と阿波踊りのダンスパフォーマンスでスタートしたイベントは、「展示」「飲食」「物販」「LIVE」の4つのテーマのもとに、20の個人・団体が出展。参加型イベントも多く、幅広い年齢層が空間を楽しんだ

昨年12月3日、「ホテル千扇」において、多彩なクリエイターによるワークショップイベントを開催した。

商業施設などを中心にイベント企画を行なうfloatが企画主催し、同氏がホテルをスペース提供したもの。

飲食、物販、体験、展示など、さまざまな分野のクリエイターが、ホテルの客室や共有スペースなどを活用して出展。入場パスポートとして500円のオリジナル缶バッチを購入した個人またはグループ客が、館内を自由に周遊しながら各イベントを楽しむ企画である。

「レジャーホテルは、地域貢献がなかなかできませんから、地元の方に楽しんでいただくイベントを第一に考えました。参加クリエイターの募集はfloatさんが行なったのですが、年配の方から小さなお子さん連れのファミリーまで、幅広い年齢層が楽しめる内容をお願いしました」（野村氏）。

地元を中心に関連業者も含め案内を送り、当日は100名を越える来場者で賑わった。

富貴、千扇の両ホテルは、カップル客以外に、ビジネス客や観光客、女子のグループ利用など、幅広い利用を得ている。また、大阪芸術大学の映像学科の学生に、課題や卒業制作の撮影場所として、毎年利用されているという。

さらに、現在、パーカッショニストの村上孝則氏や、スターベルプロダクション所属タレントのプロモーションビデオの撮影、劇団「満月動物園」とのコラボなど、主に地元を拠点に活躍する個人・団体とさまざまな企画が進行している。

「富貴や千扇の空間をひとつの“アート”として評価してくださる方々は、SNSでの情報発信力が高く、ホテルとして特別な宣伝は行なっていませんが、新しい需要が生まれています。お客さまが、ホテルの使い方を提案してくださるのです」（野村氏）。

「予祝」（新年をあらかじめ祝う）のタイトルで、多彩なクリエイターによるワークショップイベントを、「ホテル千扇」にて開催

レジャーホテルにとって、ホテルの魅力の情報発信は今後さらに重要になるが、「非日常」を活かした同社の取組みは、大きな参考になるだろう。

ホテル富貴
ルーム数●23室
所在地●大阪市都島区東野田町3-7-11
http://www.hotelfuki.jp/

ホテル千扇
ルーム数●8室
所在地●大阪市都島区東野田町3-7-4
http://hotelchisen.jp/

2015年9月26、27日の2日間、「ホテル富貴」の2室を使って行なわれたアメリカの写真家・リックサンチェス氏による写真展。ホテル富貴の客室で撮影された写真展示と販売が行なわれた